

# 北九州革新懇ニュース

平和・民主・革新の日本をめざす北九州の会  
〒803-0817 北九州市小倉北区田町13-21 田町ビル3F  
TEL093-592-5000 Fax093-571-4346  
E-mail k-kakushinkon@ace.ocn.ne.jp

## 全国革新懇「三つの共同目標」

1. 日本の経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
2. 日本国憲法を生かし、自由と人権・民主主義が発展する日本をめざします。
3. 日米安保条約をなくし、非核・非同盟・中立の平和な日本をめざします。

## 北九州革新懇 インタビュー



プロフィール 山崎 京子(やまさききょうこ)さん—広島市出身、昭和11年2月生まれ。1945年8月6日、広島市内で9歳の時に被爆した。原爆が投下された直後の惨状が今も鮮明に残る。17歳の時、急性腎臓病と診断され、その後体調の不調を抱えながら生活することになる。姉は原爆症による臓器不全で、その後若くして亡くなった。依頼されて当時の様子を語ることもある。今、「ヒバクシャ署名」を熱心に取り組んでいる。40年前に北九州市に移り住み、現在は八幡西区に居住。(※ご本人の希望で写真は未掲載にしています。)

今回は、山崎さんを自宅に訪問して、八幡西革新懇の山本猛雄・嶋國勝・池村好順が、お話を伺いました。

Q「宜しくお願いします。山崎さんは広島市のご出身で、幼いころに被爆されたと聞いています。広島に原爆が投下された当時の様子、ご自身が被爆された時のことを聞かせてもらえませんか。」(広島市への原爆投下は、8月6日午前8時15分!)

◆山崎さん— 私は昭和11年2月19日、広島市で生まれました。9歳の時、近くの友達の家で、そこは肉屋さんで午前8時ぐらいから、店の前の水まきの手伝いによく行ってたんです。8月6日の朝もそうでした。その時に、急に空襲警報が鳴り響きました。なんだろうと空を見上げたら落下傘が三つ落ちてきました。はっきり見えました。間違いなくあれは落下傘だったと思います。なぜ落下傘が落ちてきたのかわかりませ

んが…。その後飛行機が頭上で爆音を響かせて飛んでいるのも見えました。大きな音をたてて飛んでいたの、思わず「わっ！飛行機だ！」と叫びました。

そしてそれから間もなく、頭上でピカッと光ったんです。その後でした、ドーンというものすごい音がしました。いわゆる「ピカドン」です。爆弾が落ちたのかとそのとき思いました。すぐにあたり一帯が薄暗くなってきました。どこかに

逃げなくてはと焦りましたが、周りは暗くて、どっちの方向もはっきり見えません。家に帰ろうと必死でしたが、まったくわかりませんでした。その後、なんとか自分の家にたどり着くことができましたが、家は斜めに傾いていて玄関から入れませんでした。どうしようもないので、仕方がなく家の裏にまわり、なんとか家の中に入ることができました。父は警防団員で家にはいませんでしたので、急いで母と弟と私の3人で黄金山の横穴に逃げました。(※黄金山一南区、標高221、7mの山)

その日の夕方になって、雨が降ってきました。これが「黒い雨」といわれているものですが、大人の人がこの雨を舐めていました。なぜ雨を舐めていたのか、その時の私にはわかりませんでした。「ガソリンが混じっているかどうか舐めている」と誰かが言っていました。後でこの雨が、いわゆる「黒い雨」だと知りました。私たちもこの雨に濡れて、着ていたものはぼろぼろになってしまいました。

家のことが心配になってきたので、3人で黄金

山から下のほうに降りて行きました。下に降りてきたとき、片腕のなくなった兵隊さんに出会いました。ほかにも目の飛び出した人にも会いました。死んでいる人も何人もいました。あれは本当の地獄でした。私たちの家にも、逃げてくる人がたくさんいました。多くの人から「水をくれ！」「水くれ！」と言われました。でも、私の家は壊れていてその水が出ませんでした。たくさんの方が倒れて死んでいきました。

3日目、知り合いを訪ねて家を出ました。広島駅で何日も並んで待って、ようやく貨物列車に乗ることができました。田舎のほうに行って、終戦までそこに居ました。

電車が焼けているのを見ましたよ。駅から4キロぐらい離れた小学校の広場に穴を掘って、人を投げ入れて燃やしていました。川は死んだ人でいっぱいでした。その頃のことが頭からはなれません。

### Q「山崎さんのご家族は？」

☆山崎さん一両親と姉、弟と私の5人です。姉は原爆症になり、臓器がやられ若いころに亡くなりました。私も17歳のころ急性腎臓病になり、

それからずっと具合が悪くなりました。60歳ぐらいで少し良くなりましたが・・・。

### Q「『黒い雨』を大人が舐めていたというのは？」

☆山崎さん一たぶん雨にガソリンが混じっていると思ったのでは。爆弾が落とされたら大変なことになると心配したんだと思います。「黒い雨」だったのに・・・。それと、私たちの命が助かったのは、比治山(南区の標高70mの小高い丘)があったから助かったんだと思っています。私の家は原爆で斜めに傾いてしまったけど・・・。あの「銀行の前の人影」の事は知っていると思いますが、私はそこをよく通ったので何回も見ました。原爆ドームから歩いて10分ぐらいの所です。そのあたりは建物の跡だけ

で他は何もなかったですね。電車が燃えていたのははっきり覚えています。小学校には、足のない人などいっぱい運ばれてきたけど、ほとんどの人が死んでいました。ウジがわいていました。穴に死んだ人埋めた後、私たちが呼ばれそのあたりを掃除させられました。私が見た落下傘、ずっと後になってある報道から、やっぱり事実だったとわかりました。広島工業高校の近くに落ち、他の人も見ていました。私たちは、当時は靴を履いたまま寝ていました。いつでも逃げられるように。

### Q「被爆された後、その後の生活はどうでしたか？」

山崎さん一原爆ドームから10分ぐらいの所、大手町に住むことになるんですが、初めはバラック建てです。髪の毛にはシラミが湧きました。DDTを頭から振りかけられました。

ここに長く住んだんですが、それが体に悪かったのかもしれない。母は米をさらしの袋に入れて着物の中に隠して、田舎から持ってこようとしたんですが、警察に見つかってしまいました。

た。私も母についてよく買い出しに行っていました。配給のパンは一軒に一つだけです。被爆者手帳は、母が手続きをしてくれました。これ

がそうです。姉はしょっちゅう入院していましたね。その頃、被爆者手帳が手元になかったので、お金もずいぶんかかりました。

Q「最後に、山崎さんの今のお気持ちとヒバクシャ署名のことを聞かせてください。」

山崎さん—私の親も本当に苦労しました。戦争だけは絶対してほしくない。本当にそう思います。ある方が、「今の日本は戦争前と同じだ。また戦争になるだろう。」と言っていました。とても心配です。安倍さん、麻生さんは「ぼんぼん育ち」。トランプ大統領から兵器を買う、とんでもないことですよ。戦争が起きれば、日本が

被害を受けます。もうあの時の悲惨なことは、二度と味わいたくありません。戦争だけは絶対してほしくない。

「ヒバクシャ署名」は、本当に大切です。皆さんにお願いして今集めています。これからもずっと続けていきます。

(※山崎さんは時折広島弁を交えて、当時のことを丁寧に約2時間近く熱心に語ってくれました。)

○「山崎さん、今日は本当にありがとうございました。お話を聞かせていただいて、原爆が落とされた当時のことがよくわかりました。辛い体験をお話しいただいたこと、感謝申し上げます。北九州革新懇ニュースで、このことを早速皆さんに知らせていきたいと思えます。」

## 「安倍9条改憲NO！」11・3福岡県集会と北九州大集会

11月3日に福岡市と北九州市で「安倍9条改憲NO！集会」が行われました。福岡市冷泉公園で行われた県民集会の主催者は「九条の会福岡県連絡会・福岡県総がかり実行委員会」で、参加者は約1000名でした。9条の会の石村代表、総がかり実行委員会の青柳代表の挨拶、女子高校生平和大使の吉原さんと国嶋弁護士と福岡市教職員組合の平野さんによるリレートーク、共産党仁比参議院議員、社民党村山県連代表、みどりの党荒木市議員による連帯の挨拶のあと、天神中央公園まで市内パレードを



福岡県集会 福岡市博多区冷泉公園

行いました。北九州市勝山公園で行われた市民大集会の主催者は「平和をあきらめない北九州ネット」で、参加者は約1500名でした。ラッパーFUNIのパフォーマンス、共産党田村貴昭衆議院議員、社民党の森本市議員からの発言のあと、小倉駅までパレードしました。またこの日は全国規模で安倍改憲に反対する集会が各地で行われました。

安倍政権は先月行われた総選挙の結果を受けて、来年の通常国会で憲法改



北九州大集会 北九州市小倉北区勝山公園



正の発議を議決し、国民投票にかけることを明らかにしました。

しかし、今度の総選挙で、国民は憲法改定に同意したわけではありません。国民の間では、憲法改定を求めている人はまだ少数です。「安倍9条改憲 NO！全国市民アクション」は9条改憲に反対する全国3000万署名運動を開始しています。私たちはこの署名運動を通して、全国の有権者全てに憲法改悪がなされたら深刻な事態(戦争参加と民主主義の崩壊)が待っていることを訴えていく必要があります。(福岡県革新懇ニュース代200号2017年11月8日から)



## 全国革新懇は10月30日、東京都内で代表世話人会を開きました。 主な議論の内容を紹介します。

総選挙の取り組みや結果を受けた情勢、「市民と野党の共闘」の新たな発展や安倍9条改憲阻止の課題、全国交流会の準備などについて議論しました。

総選挙の取り組みや結果について率直かつ活発な議論が交わされました。多くの発言者から共通して、「民進党の解党、改憲の希望の党への合流という困難を乗り越え、『市民と野党の共闘』を追求した結果、立憲野党3党で前進し、立憲民主党が野党第一党になった意義は大きい」と指摘されました。

農民連の代表は、開票直後は共産党の議席が後退したことへの重苦しい反響もあったが、分析、議論するなかで、「あの野党共闘分断を身を挺してよく防ぎ、野望を打ち砕いた、という実感がひろがっている。また安倍自民が信任されたわけでもない。実際、自民党農政への批判が強く、農協関係者と話していても、『自民党とは一応つきあっていますが、選挙はやっていませんよ』という人も少なくなかった」と紹介しました。

全労連の代表は、総選挙での共闘がすすんだ北海道では地域労連の大会に立憲民主党議員があいさつにくるなどの変化が生まれていることを紹介。また市民連合と民進党が7項目の政策合意をした翌日に民進党がひっくりかえすなどの激変があったが、市民連合はただちに「民進党の事実上の解党と希望の党への『合流』方針についての見解」をだして対応するなど、基軸をしっかりとてたかえた、と語りました。

日本共産党の代表は、総選挙での各代表世話人の奮闘に感謝をのべたあと、「『希望』立ち上げは、野党共闘つづし、共産党排除の改憲翼賛体制をつくるのがねらいだった。これに対して、67選挙区で共産党候補をおろし、共闘勢力を増やすことに最大の力点をおいた」とふりかえり、その結果、立憲3野党で大きく議席を前進させ、立憲民主が野党第一党になったことについて、「国民のたたかいを前進させる条件、足がかりをつくった。改憲阻止のたたかいを考えても大きなステップだ。強がりではなく、本心で本当に喜んでいる」とのべました。また共産党の対応について、「民主主義を救った」など多くの識者から高い評価が寄せられていることや立憲野党の当選者が各地で党事務所を訪れ、心のこもったお礼をのべているなどの事例を紹介し、新しい関係が生まれていると紹介しました。

「オール沖縄」の総選挙のたたかいに、多くの代表世話人が支援に参加しました。「オール沖縄」勢力は4区も含めて前回よりも得票を増やしていることも指摘されました。赤嶺議員が勝利した1区では、翁長知事、城間那覇市長、稲嶺名護市長、共産党、社民党、社大党、県内保守会派、経済界、労働界、保守勢力が「オール沖縄」としてひとつになってたたかったことが紹介されました。牧野代表世話人は、全国革新懇を代表して、沖縄革新懇代表とともに、1区～4区事務所を訪れ激励。4区総決起大会では翁長知事、城間市長、糸数、伊波両参院議員らとともに、仲里候補の応援演説をしました。「残念ながら4区は落としましたが、もっと深く見ればオール沖縄のたたかいは前回よりも、共闘が深く、すすんでいると実感した。考えてみれば、全国でも同じことが言えるのではないか」という意見も出されました。(後略)